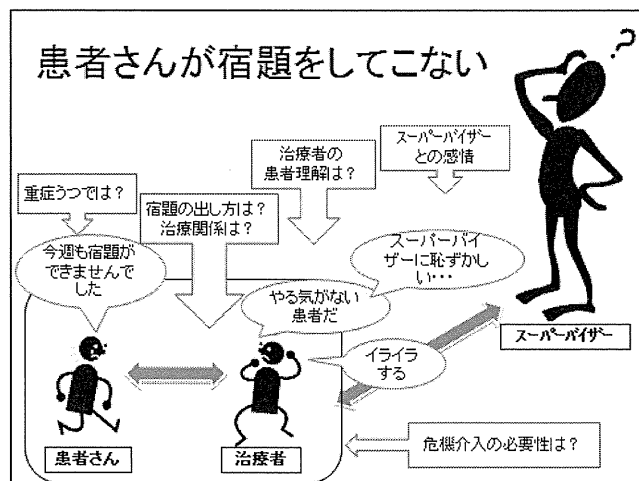


## スーパーバイザーとスーパーバイザーの感情的問題

スーパーバイザーもスーパーバイザーも、治療やスーパービジョンの中で大きな情緒的反応を経験することがあります。スーパーバイザーに沸き起こる情緒的反応や、関連する思考・信念の理解を促すこともスーパーバイザーの役割です。

たとえば、下記の例のように、ホームワークをしてこない患者に関して、スーパーバイザーがスーパーバイザーに「患者のやる気がないので、治療は中止にしたい」と報告したとします。



このような場合、スーパーバイザーは、

### ①患者についての概念化

例)宿題をしないのは重症うつ病だからではないか、この治療に危機介入をする必要はないか?

### ②患者と治療者のやりとり

例)治療者の宿題の出し方に問題はないか、患者と治療者の治療関係は?

### ③治療者の患者理解

例)治療者の概念化

治療者の逆転移感情(例:イライラ)、認知(自分は患者に馬鹿にされている)

感情制御能力に問題はないか

などについて考察します。さらに、

### ④スーパーバイザーがスーパーバイザーに対して抱く感情や思考

例:ホームワークをしてないと、スーパーバイザーに能力不足と思われるのではないかなどにも配慮します。

また、患者がホームワークをしてこないくらいでイライラしているようでは、治療者としての資質や基本的な能力にも注意が必要かもしれません。

このように、スーパーバイザーは、治療の進展に影響を与えるスーパーバイザーの個人的な問題にも気を配り、問題の背景を整理し、協働して問題解決にあたることが大切です。スーパービジョンは治療の縮図です。問題が認められた場合には、スーパーバイザーの問題と決めつける前に、スーパーバイザー自身やスーパーバイザーとスーパーバイザーの関係性にも問題がないか、も検討します。

スーパーバイザーについて評価すべき点は以下の点です<sup>8</sup>。

- ・治療者の強み
- ・治療者の弱み
- ・治療者の教育歴・臨床歴
- ・患者を概念化する際の理論的構成は？
- ・治療者の過去のスーパービジョン経験。  
どうすればこのスーパービジョンを治療の進展を役立てられるか。
- 治療者のコミュニケーション・スタイル。  
例)受身的、積極的・・・など。それが治療やスーパービジョンの進展に与える影響は？
- ・治療者の倫理的問題の扱い方
- ・治療者の管理面でのふるまい  
例)遅刻をしない、予約を守る、書類をきちんと書く、など
- ・治療者が自身が顕著な精神医学的・心理的な問題を抱えていないか？

### スーパーバイザーの能力と特性への考慮

スーパーバイザーの能力や特性(年齢、臨床経験、地域文化差など)にも考慮して、スーパービジョンにあたりましょう。具体的には次の項目に配慮します<sup>9</sup>。

#### 1)倫理的・法的考慮

- ①非倫理的行為 (例:患者との恋愛関係、など)
- ②治療者としての非適格性 (例:治療者自身がアルコール依存になっている)
- ③専門家としての能力不足 (例:能力以上のことをさせないよう配慮する)

#### 2)文化的配慮

患者やスーパーバイザーの背景・文化に配慮します。

地域によって、治療者－患者の心理的距離や慣習が異なることもあるでしょう。

#### 3)教育者としての基本的な価値観

- ・相手に対する敬意
- ・責任性
- ・サポートと挑戦のバランス (無理をさせないこと vs. 挑戦させること)
- ・スーパーバイザーを元気づけること(励ますこと)
- ・生涯学習・職業的成長への関与
- ・臨床ニーズと教育ニーズのバランス
- ・倫理原則の尊重
- ・十分な知識の裏付けをさせること
- ・自身の限界を知ること(注意を払うこと)

## ガイド作成

藤澤大介(国立がん研究センター東病院)  
中川敦夫(国立精神・神経医療研究センター)  
佐渡充洋(慶應義塾大学医学部精神神経科)  
菊地俊暁(コロンビア大学・杏林大学)  
田島美幸(国立精神・神経医療研究センター)  
堀越勝(国立精神・神経医療研究センター)  
大野裕(国立精神・神経医療研究センター)

2013年3月発行(第1版)

- 
- <sup>1</sup> Liese BS & Beck JS (2007) *Cognitive Therapy Supervision*. In: *Handbook of Psychotherapy Supervision*, Watkins
- <sup>2</sup> Beck JS, et al. *Psychotherapy-based approaches to supervision*. In: *Casebook for Clinical Supervision*, APA 2009
- <sup>3</sup> Liese BS & Beck JS (2007) *Cognitive Therapy Supervision*. *Handbook of Psychotherapy Supervision*, Watkins
- <sup>4</sup> Martin, DJ et al. Relation of the therapeutic alliance with outcome and other variables: A meta-analytic review. *J Consult Clin Psychol* 68(3), 2000. 438-450.
- <sup>5</sup> Bohart, AC et al. Therapist contributions and responsiveness to patients. In: Norcross, JC. *Psychotherapy relationships that work*: Oxford University Press, 2002. pp. 89-108.
- <sup>6</sup> Milne D (2009). *Evidence-based Clinical Supervision*, Blackwell
- <sup>7</sup> Palomo (2004) *Supervisory Relationship Questionnaire*
- <sup>8</sup> Liese BS & Beck JS (2007) *Cognitive Therapy Supervision*. In: *Handbook of Psychotherapy Supervision*, Watkins
- <sup>9</sup> Milne D (2009). *Applying Supervision*. In: *Evidence-based Clinical Supervision*, Blackwell

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍（外国語）

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
	特になし						

書籍（日本語）

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
藤澤大介	がん患者の精神医学的問題	山口徹、北原光夫、福井次矢	今日の治療指針	医学書院	東京	2012	864-5

雑誌（外国語）

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Inoue T, Honda M, Kawamura K, Tsuchiya K, Suzuki T, Ito K, Matsubara R, Shinohara K, Ishikane T, Sasaki K, Boku S, Fujisawa D, Ono Y, Koyama T	Sertraline treatment of patients with major depressive disorder who failed initial treatment with paroxetine or fluvoxamine.	Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry	38(2)	223-7	2012
Ito M, Nakajima, S., Fujisawa, D., Miyashita, M., Kim, Y., Shear, M. K., Ghesquiere, A., Wall, M. M	Brief measure for screening complicated grief: reliability and discriminant validity.	PLoS One	7(2)	e31209	2012
Kagami M, Maruyama, T., Koizumi, T., Miyazaki, K., Nishikawa-Uchida, S., Oda, H., Uchida, H., Fujisawa, D., Ozawa, N., Schmidt, L., Yoshimura, Y	Psychological adjustment and psychosocial stress among Japanese couples with a history of recurrent pregnancy loss.	Hum Reprod	27(3)	787-94	2012
Kato TA, Tateno M, Shinfuku N, Fujisawa D, Teo AR, Sartorius N, Akiyama T, Ishida T, Choi TY, Balhara YP, Matsumoto R, Umene-Nakano W, Fujimura Y, Wand A, Chang JP, Chang RY, Shadloo B, Ahmed HU, Lerthattasilp T,	Does the 'hikikomori' syndrome of social withdrawal exist outside Japan? A preliminary international investigation.	Soc Psychiatry Psychiatr Epidemiol	47(1)	1061- 75	2012

Kanba S					
Umene-nakano W, A.Kato, T., Kikuchi, S., Tateno, M., Fujisawa, D., Hoshuyama, T., Nakamura, J	Nationwide Survey of Work Environment, Work-Life Balance and Burnout among Psychiatrists in Japan.	PLoS One	8(2)	e55189	2013

雑誌（日本語）

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
藤澤大介、能野淳子	がん患者さんへの認知行動療法－ レジリエンス向上にいかす症例の 概念化と治療計画.	総合病院精神医学	24 (1)	10-17	2012
能野淳子、藤澤大介	がん領域における認知行動療法.	認知療法研究	5(2)	157-65	2012
藤澤大介	精神科専門療法の教育研修に関す る取組み－認知行動療法.	精神神経学雑誌	114(第 107回 学術総 会特別 号)	14-20	2012
藤澤大介	がん患者に対する認知行動療法.	総合病院精神医学	23(3)	370-7	2012
中前貴、藤澤大介	プレゼンテーションの基本.	精神科治療学	28(1)	121-3	2013



